

重症心不全治療部

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

部長（学内教授）（兼）川人 宏次
 医員（教授）（兼）三澤 吉雄
 医員（学内講師）（兼）塩田 勝利
 病棟医長（助教）（兼）小森 孝洋
 病院助教（兼）高澤 一平
 病院助教 滝 瑞里

2. 重症心不全の特徴

重症心不全治療部は循環器センターの一部門として、従来の内科治療や外科治療では救命できない重篤な心不全患者に対し、体外型、および体内植え込み型補助人工心臓（VAD: ventricular assist device）を導入し治療にあっている。循環器科医師、心臓外科医師、精神科医師、看護師、臨床工学士、薬剤師、栄養士、臨床心理士、ケースワーカーなど多くの職種が協力してチームとして診療に携わっており、人工心臓治療のみならず、心臓移植対象患者の適応評価、移植待機中の外来管理等も担当している。

● 認定施設

植込型補助人工心臓実施施設

● 認定医

植込型補助人工心臓実施医：川人宏次

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

3-1) 補助人工心臓 手術実施症例

症例	診断	デバイス種類	予後
57歳男性	急性心筋梗塞	体外設置型	死亡
61歳男性	冠動脈バイパス/ 僧帽弁形成術後	体外設置型	生存 (軽快退院)
34歳男性	急性心筋梗塞	体外設置型	死亡
41歳男性	アドリアマイシン 心筋症	体内植込型	生存 (軽快退院)

2015年1月に植込型補助人工心臓実施施設に認定され、4月に当院第1例目の埋込型補助人工心臓手術を施行した。術後経過は良好で現在自宅で人工心臓補助を継続しながら移植待機中である。

3-2) 日本臓器移植ネットワーク移植希望者登録 1例（41歳男性）

3-3) 体内植込型補助人工心臓患者外来管理 1例

4. 事業計画・来年の目標

植込型補助人工心臓実施認定施設は全国でも40施設しかなく多くは大都市圏に偏在している。当科は北関東で数少ない植込型補助人工心臓治療を行う施設の一つとして来年度も診療にあたりたい。

また、1) PCPS（経皮的心肺補助システム）をもつてしても救命できない重症心不全患者に対する次なる治療戦略として体外設置型補助人工心臓治療を位置付け、治療成績向上をはかること、2) 拡張型心筋症患者に対する心臓移植へのブリッジとして植込型補助人工心臓の良好な治療成績を維持すること、を目標としたい。